令和２年度　未来都市創造に関する特別委員会　委員長報告（案）

未来都市創造に関する特別委員会の活動状況について，ご報告申し上げます。

本委員会は，三宮周辺・ウォーターフロント地区における都心の再生や市街地西部地域などの活性化の原動力となる神戸独自の魅力をいかに創出するか，またその基盤となる潤いある都市空間の整備や新たな交通手段を含む総合交通体系の整備など，人口減少社会も見据えた新たな時代の神戸のまちづくりに関する必要な事項について，調査・研究し，議会の立場から政策提言を行うことを目指して，平成26年度に設置された委員会であります。

令和２年度は，本委員会が昨年６月に市長に対して行った提言「２０５０年を見据えた神戸のまちづくり」での指摘を踏まえ，新型コロナウイルスがもたらすニューノーマルへの対応が求められる中，神戸のまちづくりのあり方にどのような変化が起こるのか，感染症に強いまちづくりはどうあるべきかなどについて，幅広い観点から調査・議論を行いました。

委員会では，当局からの報告聴取に加え，テーマを定めて参考人を招致し，意見聴取及び意見交換を行うとともに，各委員の課題意識に基づいた委員間討議を積極的に行いました。

参考人招致では，まず，ＷＨＯ健康開発総合研究センター医官の茅野（かやの）　龍馬（りょうま）氏を迎え，「新しい三宮に推奨される新しいコンセプト～感染症対策の視点から～」をテーマに，意見聴取を行いました。

委員会では，都市部における感染症対策や多部門連携の必要性，移動手段の分散化などについて意見交換を行いました。

次に，アクセンチュア・イノベーションセンター福島　共同統括の中村（なかむら）彰二朗（しょうじろう）　氏から，「Ｓｍａｒｔ　Ｃｉｔｙによる自立分散社会の実現へ」をテーマに，意見聴取を行いました。

委員会では，スマートシティの推進体制や都市ＯＳの運営，情報セキュリテ

ィの確保，市民参画の進め方などについて意見交換を行いました。

なお，この参考人招致については，神戸市会として初めてオンラインで参考人招致を実施し，以後の参考人招致についても全てオンラインでの実施となりました。

次に，東京大学大学院工学系研究科の羽藤（はとう）　英二（えいじ）　教授から，「神戸をもう一度つくる」をテーマに，意見聴取を行いました。

委員会では，郊外におけるモビリティの確保や住み替えのサポート，神戸の地形を生かした再開発のあり方，国際競争力の確保などについて意見交換を行いました。

次に，早稲田大学理工学術院の森本（もりもと）　章倫（あきのり）　教授から，「New　Normal時代(アフターコロナ)の新しい都市計画の展望」をテーマに，意見聴取を行いました。

委員会では，公共交通に関する財政負担のあり方，自転車の利用拡大や自動運転などの技術開発に対応した都市計画のあり方，まちづくりにおけるアクセシビリティ・近接性の確保などについて意見交換を行いました。

これらの調査活動を踏まえ，新型コロナウイルス感染症を契機としたまちづくりの方向性について，各委員が自らの課題意識に基づいて意見表明を行うとともに，３日間にわたり５時間を超える委員間討議を重ねた結果，「感染症を契機としたまちづくりの方向性について」，「持続可能な社会の構築について」の２つの柱について計23項目にわたる提言書「ポストコロナ時代に適合した持続可能な神戸のまちづくり」をとりまとめ，４月26日に久元市長に提出いたしました。

なお，本委員会では，提言書の内容を市民のみなさまにご報告するため，６月１日に市民報告会の開催を企画し，５月からは市会だよりでの告知を行うなどの準備を進めてまいりましたが，緊急事態宣言の期間が延長されたことなどから，市民報告会を中止することとしました。

以上，委員会の活動状況についてご報告を申し上げましたが，新型コロナウイルス感染症への対応は，厳しい医療提供体制をふまえると，予断を許さない状況にあります。

当局におかれては，本委員会の提言や委員会における意見なども踏まえ，ポストコロナ時代に適合した持続可能な神戸のまちづくりの実現に向けて，取り組んでいただくよう要望し，委員長報告といたします。